

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

##### ●横浜国立大学環境情報学府情報メディア環境学専攻

##### 「医療・福祉分野で活躍できる情報系人材育成」の事例

###### (具体的に何を実施したのか)

横浜国立大学内の2教室、横浜市立大学内の1教室に双方向高精細ハイビジョン遠隔講義システムおよび双方向マーキングシステムを設置し、本学大学院の学生が、キャンパスを移動することなく横浜市立大学大学院医学研究科で実施されている講義を受講できるようにした。また、この設備を利用し、以前より本学教員が横浜市立大学大学院医学研究科へ提供してきた科目を、本学大学院の学生も受講できるようにした。

###### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

一般的な遠隔講義システムでは、板書の文字が見えづらい、教員と受講生との間に臨場感が生まれにくいなどの問題点があるため、双方向高精細ハイビジョン映像により互いに顔の見える講義を心がけた。また、パワーポイントによる講義では、パワーポイントのみの映像では臨場感がない、教員がレーザーポインタで指し示す位置が見えづらいという欠点を無くすため、高精細カメラ映像とPC画面映像を並列して伝送できるシステムを利用し、さらに、レーザーポインタの位置を自動認識して受講側で直接パワーポイント上にポインタを描画するシステムを導入した。

###### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本学と横浜市立大学医学部キャンパスとの間では、公共交通機関を使うと1時間ほどかかるため、横浜市立大学で講義を聴講させていただけるとしても、前後に別の講義を受講している学生は受講できないという問題があった。しかし、遠隔講義システムを導入することで、移動時間を考えずに受講することが可能である。

また、並列伝送していた高精細カメラ映像・PC画面映像を同期録画していたことにより、社会人学生や講義を欠席せざるを得なかった学生が、後から録画映像により自習することが可能になった。このとき、レーザーポインタの指し示す位置も同期録画されていることで、録画映像においても、今資料中のどこについて説明しているかがわかりやすいという利点があった。